

Supported by



農林水産業
みらい基金

平成 27 年 12 月 15 日
農林水産業みらい基金

農林水産業みらいプロジェクト 平成 27 年度助成対象事業の決定について

農林水産業みらい基金は、農林水産業みらいプロジェクト平成 27 年度助成事業における助成対象事業を決定しました。

農林水産業みらいプロジェクトでは、「農林水産業と食と地域の暮らしへの貢献」に向けて、「創意工夫にあふれた取組みで、直面する課題にチャレンジしている地域の農林水産業者へのあと一歩の後押し」を行うための助成事業を実施しています。

平成 27 年6月4日から8月 13 日まで一般公募を行いましたところ、全国各地より計 92 件のご応募を頂きました。

多数のご応募を頂きましてありがとうございました。

今回、ご応募頂いた申請について約3ヶ月半にわたる厳正な審査を行い、本年度の助成対象事業として合計8件・助成総額9億円を決定しました¹。

各助成対象事業は別紙のとおりです。

来年度につきましても、募集要項の見直しを行いながら、農林水産業の発展に向けた助成事業を行ってまいりますので、今後ともよろしくお願ひします。

以 上



¹ 申請額ベースの金額であり、実際の助成金額と異なる場合があります。助成対象事業1件あたりの最大助成額は 2 億 7600 万円、最小助成額は 500 万円です。

私たち農林水産業みらい基金は、JA(農業協同組合)・JF(漁業協同組合)・JForest(森林組合)グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

助成先①

事業主体	いわきおてんとSUN企業組合
事業名	農業・地方の価値発信のための場づくり
活動拠点	福島県いわき市

- 当組合は、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の運営と綿花栽培を行っています。東日本大震災後、福島では風評被害から農業を断念する生産者も多く見られました。そこで食用ではなく、塩害にも強い「綿」を有機栽培で育て、収穫されるコットンの製品化・販売を通じて地域に活気と仕事を生み出す活動を続けています。
- これまでも、農業ボランティアやスタディツアー客をこの地域に多数受け入れてきましたが、この活動を継続・発展させるため、地域固有の魅力を発掘・発信することで、さらに人を惹きつけていきたいと考えています。
- 今回のプロジェクトでは、みらい基金の助成金を活用して、地域活性化に取り組む先進地に自ら赴いて、ノウハウなどを学び、現在の活動内容に活かし、内容の一層の充実を図ります。「農業や地域の価値」を高めながら、人々を惹きつける仕組みづくりを行い、地域全体の発展にまで貢献できるように活動を広げていくことを目指します。



助成先②

事業主体	株式会社グリーンズ北見
事業名	「日本一を“ぎゅっと”」 たまねぎの加工を通じた地域みらいづくり
活動拠点	北海道北見市

- 当社が位置する北海道北見地方は、国内最大のたまねぎ産地です。当社はこの地でたまねぎを中心とした地元野菜の加工を手掛けています。地元農協グループや北見市などの出資で運営され、地域全体で地元農産物の販売力強化に努めています。
- たまねぎは様々な加工品の原料として利用されていますが、低価格な輸入品が多く流通しており、国産品の利用を広げていくには、輸入品との差別化が必要となっています。
- 今回のプロジェクトでは、みらい基金の助成金を活用して、これまで食品メーカーへの出荷が中心だった加工品の販売を、一般向けにも拡大し、たまねぎ産地としてあまり認知されていない北見の地名を前面に出すことで、「北見たまねぎ」を広くアピールすることに挑戦します。
- 日本の食の原料供給基地たる北海道が、加工を突破口として前面に立ち、国産地域、農産物の価値向上を図るものです。



助成先③

事業主体	株式会社西粟倉・森の学校
事業名	林業従事者のための副業経営基盤開発事業
活動拠点	岡山県英田郡西粟倉村

- 当社は平成 20 年から西粟倉村で、林業を軸として地域振興を図る「百年の森林(もり)構想」を村役場と一体となって立ち上げ、展開してきました。木材の加工流通、移住・起業支援を通じて、これまでに 100 名以上の移住者、80 名以上の雇用創出を実現してきました。
- これまでの活動を通して、林業に携わる移住者の定着率を引き上げるには、この地で安定した生活を営むのに十分な所得を得られる機会を増やしていくことが重要だと考えました。
- 今回のプロジェクトでは、みらい基金の助成金を活用して、林業従事者の世帯所得を引き上げていくための「基盤づくり」に挑戦します。ナマズの稚魚やウナギの養殖、京都大学の技術を活用した低コストモデル住宅の建設、木材加工場から出るおが粉を利用した土壌改良剤の研究・生産などを行う施設を整備することにより“副業づくり”を図っていくものです。
- この地の豊かな資源をベースに農業・林業・水産業にまたがる技術を導入し、循環的に活用しながら、地域全体の活性化と定住の安定化を目指します。



助成先④

事業主体	児湯広域森林組合
事業名	森林の現況をリモートセンシング技術で取得 ～現地に即した森林情報の活用で提案型集約化施業を推進～
活動拠点	宮崎県西都市

- 当組合は、宮崎県で森林整備、木材加工事業を営みながら林業の活性化に努めています。
- 造林・保育・伐採(この一連の行為を「施業」という)を山主に提案する際には、森林の現況把握が不可欠ですが、そのために利用する森林簿の更新が追いついていないのが実情です。この森林簿と実際の現場の状況との乖離が大きいため、複数の職員が山深くまで足を運んで現場を確認する作業が必要となっており、時間もコストもかかることが課題となっています。
- 今回のプロジェクトでは、みらい基金の助成金を活用し、宮崎県から提供されるデジタル航空写真GISの解析、航空レーザ計測などの新技術の活用により、現況に近い森林資源情報を取得し、施業提案の立案の短期化、高度化を図ります。これにより、山主へのより多くの還元を目指します。



助成先⑤

事業主体	佐川町 + 特定非営利活動法人イシュープラスデザイン
事業名	さかわものづくり大学 林業×デザイン×デジタルによる住民発ものづくり拠点創造事業
活動拠点	高知県高岡郡佐川町

- 「さかわものづくり大学」は、この地で切り出した木材を活用した“ものづくり”をキーワードにして新規事業を生み出す「学びと創造の拠点」づくりを行う取組みで、「自伐型林業」を核とした地域活性化に取り組む佐川町がイシュープラスデザインと相談しながら進めようとしている地方創生プロジェクトです。
- 今回のプロジェクトでは、みらい基金の助成金を活用しながら、地域おこし協力隊をはじめとする自伐型林業従事者を組織化するとともに、個人で“ものづくり”ができるレーザーカッター・3Dプリンターなどの先端加工機器と人材育成機能を備えた「ものづくり大学」施設を整備し、切り出した木材の高付加価値化を目指します。
- この拠点を起点に木材の加工・販売機会をつくりながら、ものづくりに興味のある人々の移住を促進し、子どもたちの木育の場をつくり、佐川町を「新しいものづくりをけん引する町」として活性化させていくことを目指します。



助成先⑥

事業主体	農事組合法人 開発営農組合 + おうみ富士農業協同組合
事業名	“農育”の実体験から始まる就農ビジネスへの展開
活動拠点	滋賀県守山市

- 開発営農組合は、計54戸の農家で組織される集落営農組織で、米や野菜の栽培、農作業の受託などを行っています。また、近隣にはおうみ富士農業協同組合の農産物直売所「おうみんち」があり、その直売所を通じた農産物の販売と、農業体験者の受け入れを行っています。
- 現在、この集落は高齢化が進行しつつあり、農業者の減少、後継者不足、休耕地の増加などの課題に直面しています。
- 今回のプロジェクトは、みらい基金の助成金により休耕地を利用して体験圃場を拡大し、都会の人々が農業にふれあえる機会を増やして人を集めていくことで、地域農業をもう一段活気づけようとするものです。
- 圃場でとれた農産物の販売、情報発信、集客などについては、おうみ富士農業協同組合と一体的に進めながら、人の流れをつくっていきます。
- 都会から訪れる体験者を、農業と一緒に担う戦力かつ将来の農業の担い手と捉えて、体験者とともに地域農業の維持・発展を目指します。



助成先⑦

事業主体	福岡市漁業協同組合
事業名	漁業集落活性化へ向けた洋上・陸上養殖プロジェクト
活動拠点	福岡県福岡市

- 当組合は、玄界灘と博多湾を主な漁場とし、福岡市全域を管内として地域水産業の振興に取り組んでいます。
- 市内の志賀島地域は以前から養殖ワカメの産地ですが、地域住民や漁業者の高齢化によって生産量と担い手は徐々に減ってきています。
- 今回のプロジェクトでは、みらい基金の助成金を活用し、志賀島で新たな養殖業を興すことを目指します。福岡市と当組合で研究を進めている最新のアサリの陸上養殖技術を活用しながら効果的に育成した稚貝を、砂地ではなく洋上で成貝になるまで懸垂養殖することにより「砂なしアサリ」として育成し、これを事業として発展させていこうというものです。
- 組合員個人では大規模な設備を導入することが難しいところを、当組合主導で共通設備を整え、地域の水産業と雇用の活性化を目指します。



助成先⑧

事業主体	山口県漁業協同組合
事業名	“江崎の浜”活性化みらいプロジェクト
活動拠点	山口県萩市

- 当組合は、日本海と瀬戸内海に開け、三方を海で囲まれた山口県全域を管内として地域水産業の振興に取り組んでいます。
- かつて“江崎の浜”では定置網漁が行われ活気ある漁村でしたが、操業が止まった平成7年以降、過疎・高齢化も進み、かつてほどの活気がなくなってしまいました。
- 今回のプロジェクトでは、みらい基金の助成金を活用し、定置網漁を再開します。水揚げや雇用規模が大きく、単独操業が難しくなった高齢漁師や新規就漁者でも入りやすい定置網漁の再開によって、雇用機会をつくり、他の地域から来る新規就漁者の定住などは行政もサポートします。さらに、市場価値の低い漁獲物は当組合女性部が加工し、道の駅、JA直売所や移動販売車で販売します。
- 当組合、県、萩市、現役漁業者、高齢者、新規就漁者などが一体となって“地域総ぐるみ”で取り組み、浜の活気を取り戻すことを目指します。



申請・助成件数(27年度)

		件数	前年度比
(1)事前申込書受付 合計		(100%) 92件	△28件
産業別	農業	(82%) 76件	△20件
	水産業	(10%) 9件	+2件
	林業	(8%) 7件	△10件
地域別	北海道・東北	24件	+5件
	関東・甲信越	24件	△17件
	東海・北陸・近畿	23件	△17件
	中国・四国	6件	△1件
	九州・沖縄	15件	+2件
(2)本申請書受付 合計		74件	△5件
(3)助成対象事業【決定】		(9%) 8件	+2件

以上